

令和5年3月18日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和5年度 第3回

食糧難の時代が来る？

おはようございます。ただ今、神藤評議員会議長が開会挨拶をされました。その中で、家庭菜園で作っているじゃが芋やさつま芋など根菜類を今年は通年の2倍植えるようにすると言っておられました。大変良いことだと思います。私が、これから日本は食料不安に陥ると言い出したのは、もう覚えていないぐらい前になります。だんだんその時代に入ったと思っています。

かつて日本は、食べ物を確保するのに大変な時代がありました。私の頭に思い浮かぶのは、母親から聞いた戦後の食糧難の話です。私が母親のお腹にいた時、母親と家族の女性達が地方の農家へ食料を買い出しに行きました。何とか食料を確保しても、電車の中で警官が待ち構えていて、食料を没収されてしまうわけです。母親は食料をお腹に隠して、お腹が膨らんでいるのは赤ん坊がいるからだと言ったと妊婦手帳を見せて、摘発を免れたそうです。男性が買い出しに行くと、大体摘発されることが多かったようです。女性に対しては少し緩やかというか、一家の台所をまかなう役目は警官の家でも同じでしょうから、やはり目こぼしもあったのだらうと思います。ちなみにこれは、ごく普通の家庭の話です。

昭和21年2月17日、日本政府は緊急金融措置令を打ち出しました。緊急金融措置令とは、今使われているお金は使えなくなるから、タンス預金など現金は全て銀行に預けて下さいという内容です。そしてお金を銀行に預けた後、政府はそれを凍結しました。お金が引き出せないから、当然食べ物を買うお金がない。そこで何をしたかという、タンスの中に入っている着物や嫁入り道具、貴重品を農家に持って行って食べ物と交換しました。そういう流れを緊急金融措置は生み出したわけです。

緊急金融措置令の何ヶ月後かに出た法律が、都会地転入抑制措置令です。都会では食べ物がどんどんなくなってくる。都会の人に食料を確保せねばならないということで、政府は地方の人が都会に出てくることを禁止しました。その頃、銀座の柳を引っっこ抜いて野菜を植えたという話がニュースになりました。

海外に目を向けてみると、一番分かりやすいのはロシアです。ソ連が経済破綻を起し

でロシアになったわけですが、その時はお金の価値がいったんに下落しました。1つ100円で買えるものが2000円とか3000円でないと買えないようなインフレが一気に広がり、いわゆるハイパーインフレになりました。

ロシア政府はデノミを行ないました。普通のデノミは呼び方を変えるだけですが、ロシアのデノミは通貨の価値そのものも下落させました。例えば、1万円札が1円の価値になるわけです。国民の持っているお金の価値を一瞬にして落としたのですから、大金持ちが貧乏人になりました。

政府は国民が餓死する危険性が非常に高いということで、モスクワ市の場合でみると、希望する人に1世帯あたり300坪程の土地を無償で貸し与えました。市民はそこでじゃが芋を作って餓死を免れたという話が残っています。しかし土地を貰えなかった人や、大丈夫だろうと高を括っていた人たち等、相当数の国民が餓え死にをしています。

こういう話はメディアに一切出ていません。私はそこら辺を調べようと思って、ソ連に3回行きました。現地の方と話を色々聞いた結果、後で調べたものも追加すると、約2000万人が餓え死にをしています。なぜそういう数字が言えるかというと、日本に帰ってきてから学者の方たちと話をし、人口動態体統計調査から推計して2000万人ぐらいは原因不明で亡くなっているから、これは飢え死にであろうという結論を出しました。

しかし、当時の状況について学者が書いている中には、「モスクワの市民は家庭菜園で食べ物を作って、餓え死にする人がなかった」という内容のものもあります。実態を調べずに、受売りで書いているのです。受売りは怖いと思いました。ですから私は自分自身で体験したもの、自分自身で調べて納得したものしか話しません。

他にも経済破綻を起こした国々を回ってみて、そういう体験を確認してきました。それと同じようなことが、また起きると思っています。

こういう話をしたのは、フォーラム終了後に若手経営者の勉強会がありまして、今日のテーマが「リーマンショックはまた起きるか」という質問でした。私は、似たようなことは当然起きるに決まっていると思っています。リーマンショックよりもう一つ前の終戦直後の状況をお話して、それを踏まえて今後どうすべきかを考えるべきだ、とお話するつもりです。

これからリーマンショック級のものは何度も起きると思います。終戦直後の方が遥かに大変な話です。焼け野原になったのですから。国民が食べられなくなったのです。焼け野原から経済力世界第2位まで一気に駆け上がっていった日本の最大の秘訣は、日本人の勤勉性がしからしむるものだったと思います。

それと、凄まじい創業意欲があったからだと思っています。例えば、松下幸之助さんの水道哲学は有名です。「水道の水は価値あるものであるが、人が公園の水道水を飲んでも誰も咎めない」・・・良い物を安く沢山作って人々に行き渡るようにしたという水道哲学のもとに、松下電器はぐんぐん発展していったわけです。そのように戦後、雨後の筍の如く色々な企業が立ち上がりました。その中で凄まじく発展したのは、みな強烈な個性の人ばかりだと思っています。見た目は同じ人間ですが、中身はだいぶ違います。その人たちの根っこにあったものは、志です。「こういうものになりたい！」と強く思った人たちが自分を鍛え、会社を作り、日本を再建していったのです。したがって創業の志というものを見なければいけないと思っています。

国（邦）

では、素読に参ります。私の後についてお読み下さい。

（素読）

テキストの『素読論語』は、意識的に一文字空けたり半文字空けたりして、自然と読めるように工夫を凝らしました。点の打ち方も、長く続けたり短く区切ったりしていますが、これは意味が理解しやすいようにしています。

ただ今の素読で、私は一ヶ所だけテキスト通りに読みませんでした。私が読んだ通りに皆さんが読むか、テキスト通りに読むかの実験をしました。そうしましたら、皆さんは私が読んだ通りに読まれました。これは学ぶことの基本です。「学ぶ」とは、「まねぶ」とも読みます。真似をすることが学問の第一歩になります。そうやって学びを深めて、自分なりに読みこなせるようになったなら、お好きなように読むがよいと存じます。

今日の論語のテーマは「国」です。論語の中に、国家のあり方についての話がかなりありますので、これをテーマに致しました。①から⑤までは、国についての話です。⑥、⑦は少し視点を変えて、国家のあるべき姿について、良いこと悪いことを含めて取り上げました。では、解説を致します。

① 子 南容を謂う。邦 道あるときはすて靡られず。邦 道無きときはけいりく まぬが刑戮に免ると。其の兄の子を以て、之に妻あわす。（公冶長第五・1）

南容は貴族の出のお弟子さんです。南容について、孔子が評価しています。

南容は、良い君主がいて秩序が守られている時は、家の格にふさわしいポストに就けるであろう。阿呆な君主で国が乱れている時には、冤罪で逮捕されたとしても罰せられるこ

とはないだろう。そうそう困った生活には陥らないだろうから、南容に自分の兄の娘を嫁がせてもよからう。

この当時は、家長が自分の子供たちの結婚を決める事が普通でした。孔子は一族の長として、世間並みの考え方で、南容に自分の兄の娘を嫁にやろうと決めたという文章です。

② し いわ ねいぶし くに みちあ すなわ ち くに みちな すなわ ぐ そち
子曰く、甯武子、邦 道有れば 則ち 知なり。邦 道無ければ 則ち 愚なり。其の知
およ そぐ およ
には及ぶべきなり。其の愚には及ぶべからざるなり。（公冶長第五・20）

甯武子について、孔子が批評しています。

甯武子は衛の国の家老です。甯武子が仕えていた文公は道を理解している、いわゆる有道の君子でした。そういう素晴らしい君子に仕えている時には、知者として自分の才智を十分発揮した。その次の成公は無道の君子だったので、愚か者を装った。

孔子がその様子を見て、甯武子は大した人物だと評価したわけです。

その知恵者ぶりは誰でも真似ができる。しかし、愚か者ぶりは誰にも真似が出来ない。

③ し いわ あつ しん がく この し まも みち よ きほう い らんぼう
子曰く、篤く信じて学を好み、死を守りて道を善くす。危邦には入らず。乱邦に
お てんか みちあ すなわ あらわ みちな すなわ かく くに みちあ まず か
は居らず。天下 道有れば 則ち 見し、道無ければ 則ち 隠る。邦 道有るに、貧しく且つ
いや はじ くに みちな と か たつと はじ
賤しきは恥なり。邦 道無きに、富み且つ 貴きは恥なり。（泰伯第八・13）

孔子が言うには、聖人の道を信じて学問に励む。死ぬ寸前まで人間として踏むべき道を守り続け、道に外れない。

危ない国には行かない。内乱のある国にも行かない。

世の中が無事に治まっている時には表に出て活躍をする。世の中が乱れている時には引退して活動しない。

まっとうな世の中の時、貧乏で用いられず誰からも認められないのであれば恥だと思いなさい。国が乱れてどうにもならない時、上手に立ち回って金持ちになり、誰もが羨むようなポストに就くのも恥だと思いなさい。

④ けん はじ と 憲 恥を問う。子曰く、邦 道有るときは、穀す。邦 道無きときに穀するは恥なりと。（憲問第十四・1）

原憲は孔子より 36 歳若いお弟子さんです。節操が固く、悪いことはしない人物です。

その若いお弟子さんが「恥とは何ですか」と孔子に質問しました。孔子は相手にあわせて分かりやすく答え方を変えますから、自分と同じぐらいの年だったり年長者であれば、当然答え方は変わるわけです。

孔子が言うには、道徳が行き渡って世の中がきちんと治まっている時は、きちんと働いて俸給を受けるがよい。・・・今風に言えば、公務員になっても良い。

国が乱れて道徳のない時に、俸給を貰うのは恥である。・・・汚職の中核である公務員の職に就くのは恥だと思いなさい。

⑤ 顔淵 邦を為めんことを問う。子曰く、夏の時を行い、殷の輅に乗り、周の冕を服し、樂は則ち韶舞、鄭声を放ち、佞人を遠ざく。鄭声は淫に、佞人は殆しと。
(衛靈公第十五・10)

顔淵は孔子の一番弟子です。

その顔淵が謙遜して、「私が一つの小さな国の総理大臣になったら、どのように国を治めればよいでしょうか」と聞きました。

私の一番弟子が何を聞くのだ。お前の能力なら、一つの国家よりも天下を治める方法を聞くべきだ、という気持ちで孔子は答えています。

暦は、夏王朝の暦を使いなさい。

車は、殷王朝の輅（君子が乗る大きな馬車）に乗りなさい。

冠を被る時は、周王朝をお手本にしなさい。・・・ちなみに、子路という孔子の大変氣に入っていた勇猛果敢なお弟子さんがいますが、子路が戦で亡くなる時には、冠をかぶり直し紐をきちんと結んで、正しい服装で最期を迎えたという話が残っています。

音楽は、舜帝の韶がよろしい。

鄭の国の淫らな音楽を禁止し、おべっかばかり使って取り入ろうとする人間は遠ざけなさい。・・・この時代の音楽とは、今の音楽とは意味合いが違います。音楽を身につけることは政治家として正しい道を歩んでいる証でした。音楽を嗜むということは、政治家としての能力があると認められるわけです。

淫らな音楽に身を任せてはいけなしいし、おべっか使いの人間を重宝していると身の破滅を招くものだ。

①から⑤までの論語は、一貫して国の政治が正しく行われている時はどうする、正しく行われていない時（内乱状態の時）はどうする、という例が書かれています。

⑥と⑦は、国（邦）という言葉は出て来ませんが、⑥は日本の総理大臣、⑦は今のロシアでお考え下さい。

⑥ 子 曰く、民は之に由らしむべし。之を知らしむべからず。（泰伯第八・9）

「民は之に由らしむべし」・・・その国を司っているトップに対して、国民が親しみを持つ。トップが国民の前に立つ時には、皆が話を聞きたいと思って自然と集まって来る。トップの話聞いて、たとえ内容が分からなくても、あの人の言うことだから信用して付いて行こうと思う。そういう徳のある人間が上に立つべきだ。

天皇陛下が一般参賀や行事でお出ましになる場合、たいそうな数の国民が集まりますね。昨年のエリザベス女王が亡くなった時も、イギリス国民が最後のお別れをしたいと国じゅうから集まっていました。そういうものが、「民は之に由らしむべし」を具現化した動きだと思います。

「之を知らしむべからず」・・・自分の本音、真意を国民に伝えようと思ってもなかなか伝わるものではない。自分の真意が伝わらないのは悲しい、残念であるという気持ちがこの中に含まれています。

日本の場合で考えましょう。仮に岸田さんが亡くなった時、国民がたくさん集まって別れを惜しむようであれば、真つ当な総理大臣だったということでしょう。集まらなければ、真つ当ではなかったという評価が後に出るのだらうと思います。

「知らしむべからず」という部分は、国民の為にと思ってやったことが伝わらないのは悲しい。残念だけれども私の努力が足りなかったからだと自分自身を責めるがよい、と解釈すべきでしょう。

これは国家の説明ですが、市町村でも家庭でも同じだと思っています。

⑦ 子 曰く、教えざる民を以て戦うは、是れ之を棄つと謂う。（子路第十三・30）

戦い方の教育もしないで、国民を戦場に送り出すのは棄民、すなわち国民を見捨てたのと同じである。

ロシアでは大学生が戦い方を全く教えられないまま戦地に送られている、というニュースをよく見ます。招集された兵隊たちが、「我々は人間です。単なる肉片ではありません」と言っている報道も見ました。

こういう情報を見る時、果たして本当にそうなのか、そういうお芝居をしたものがフェイクニュースで流れているのではないかと一旦は疑う必要があると思っています。話をよく聞いて、これは事実だろうか、プロパガンダだろうか自分で判断すれば良い。

いずれにしても、戦い方も教えられないまま戦地に送り出されているという報道が本当であれば、ロシア政府は国民を見捨てたことになります。

先程、メディアは受売りで書いていると申しました。昔の新聞やテレビは、嘘と知らずに内容が分からぬままに流していたと思います。今は、新聞に書いてあるものは大体嘘ばかりだと思って読む方が良いでしょう。

現在は世界各国ともグレーゾーンに入っています。日本で言うと、日本と中国とは戦争状態、日本と北朝鮮も戦争状態、日本とロシアも戦争状態です。最近はそれにプラスして、宇宙戦争も加味した意味合いになって来ています。そういう状況ですから新聞であれ、テレビであれネットであれ、私はメディアに出てくる情報は大半がフェイクニュースだと思っています。ですから流れてくる情報が事実か事実でないかを見抜かない限り、我々はフェイクニュースに踊らされます。フェイクニュースかどうかを調べて納得するには、ご自身のものを見る力のレベルを上げなければいけません。

最近の新聞やテレビ等の情報で私が気にしているのは、誰がこの情報を発信したのか、この情報を流すことによって誰が利益を得るのか、誰がどういう意図を持って流しているのか・・・これらを考えない限り、そう簡単に情報というものは信じてはいけないと思っています。

そうしてみると、先ほどの学者の「モスクワの市民は家庭菜園があったので餓え死にしないでよかった」という記事については、以前はこの学者は無知受売りで流していると感じただけでした。今は、この学者の経歴を調べ、誰かから指示されてそういう情報を流したのか、或いは何処の国のプロパガンダか等々を考える必要があると思っています。

プロパガンダとは、色々な情報を自分たちの国に都合いいように変えて流すことです。現在のロシア・ウクライナ戦争で言えば、ロシアにとって有利な話を流す、或いはウクライナにとって有利な情報を流す。前回も申しましたが、去年の暮れに現役のロシアの駐日大使と会って話を伺った時、私が「アメリカとロシアは戦争状態です・・・」と質問をしたところ、ロシア大使は「おっしゃる通りです。武力による戦争はしておりませんが、サ

イバー戦争はしております」と、サイバー戦争という認識を明確に持って、それを肯定しました。更に、「アメリカとのサイバー戦争に我々は今、負けています。我々の発信力が弱いから、ウクライナの情報ばかり日本の国内に溢れていて、ロシアの情報はほとんど伝わらない。日本国民はウクライナを目線で観ているから、困っています」とも言っておられました。

そうすると、日本の国に溢れかえっている情報はいったい誰が流しているのか、それを見抜く力、事実を事実通りに見る力を我々は持たねばならないだろうと考えています。

恒例の質問

では、恒例の質問を致しましょう。今年に入って3ヶ月半経ちましたから、その間でお答えください。

○ 今年に入って、良い日が続いていると思う方

良いことと悪いことがこれだけあって、良い方が多い・・・そう客観的に見てはいけません。良いことが少しでもあったなら、それを全身でしっかり受け止めれば、良い日だったなあという気持ちがずっと続きます。念押しをすると、あくまで主観でみることです。

○ 嘘はつかなかったし、嘘をつかれなかった方

○ 有難うと言い、有難うと言われ続けている方

○ 身体の手入れをよくやっている方

ちなみに今日は私の76歳の誕生日でございまして、朝目覚めた時、この調子だと10年ぐらいは同じ調子でいけるだろうと遥々と思いました。それは、体のケアをしているからです。毎日の習慣になっている身体のケアは真向法です。私は柔道や合気道もやりましたが、どちらも相手が必要です。その点、真向法は一人で出来ます。また、誤嚥を防ぐのは詩吟です。詩吟は喉が鍛えられるので、誤嚥の心配は減ります。

身体のケアを疎かにすると、後でツケが来ます。同時に、心のケアも必要です。安岡正篤先生は、「美人であればあるほど、顔の手入れより心の手入れをなささい」と言われました。若い頃は美人だと褒めそやされても、心を磨かないで歳をとると、あまり近寄りたくないお婆さんになる。ところが心を綺麗に保つようにしていると、品の良い素敵なお婆さんになります。

○ 今年に入って、自分磨きをよくやっている方

○ 昨晚眠る時に、明日以降の未来を過去形で考えて寝た方

夜寝る時どういう気持ちで寝たかによって、生きざまが変わって来ます。明日は良い日になって欲しい、そう願って眠る方は普通の人生。明日、もしくは明日以降のことを過去

形で振り返って眠れるようなら万々歳です。そういう眠り方をした方はおられますか？

・・・嬉しいことに、大分増えて来ました。

時事評論 — 令和5年を考える —

繁栄か没落、岐路の年

今年、癸卯（みずのとう）は別れ道という意味になります。これから日本は繁栄していく道に入るか、衰亡していく道に入るか、どちらか判断をする年です。従って今年は大きなことは起きません。ずっと前から私は台湾有事と言っていますが、今年は様子見の年になると思いますので、注意しつつちょっと一服です。したがって来年以降は起きると思っています。

コロナは死亡しないことが肝心

レジメにコロナの死亡者数の表を書きました。私はコロナについて、政府が発表している感染者が何人だとか、ワクチンは打つべきだという話は、一切信用していません。私が途中まで信じて見ていた基準は、その年に何人コロナで亡くなったか、死亡者数だけ調べていました。表を見て戴くと、最初の年の死亡者数は4000人弱。2年目は1万5000人弱。3年目は4万人弱です。4年目の今年、1月から2月までの間で1万5000人弱。2年目一年間で死亡した人数と、今年の1~2月の死亡者数が拮抗しています。

今年1月のフォーラムでは、その時点で死亡者が鰻上りに増え続けているから、政府が下火だと言っているのは間違いだと思って話をしました。ところが3月に入ってから昨日までの17日間で、死亡者は977名です。死亡者がこれだけ減ったのですから、今の政府は運が良いと思っています。

運の良い政府と言ったのはまだ奥があって、全くよく捏造するものだと思っています。なぜならばコロナの死亡者の定義は何度も変わると感じています。笑い話での例えですが、コロナで入院する途中の車で交通事故で死んでしまったとすると、コロナ死にカウントされた。これが最初の頃のことです。

今は、コロナの感染者の定義も死亡者の定義も、政府の都合によって変えられていると思っています。したがって信用できなくなりました。本当に真面目に勉強しているお医者さん、親しいお医者さんがいたら、コロナの定義が変わっていないか聞いてみるとよろしいでしょう。尤もコロナで儲けている医者であれば、政府の言う通りだと言うかもしれません。いずれにしてもお金で言い方を変えさせられていると私は思っているので、死亡者数もちよっとおかしいと思っています。それが世間に出回って来ているということが、救

いといえば救いですね。ただその分、自分で判断しなければならぬものがあり過ぎます。何かにつけて政府は「自己責任」と言いますが、いい加減にして欲しいと思っています。

コロナは死亡しないことが肝心と書きましたが、とにかく死んでしまったら元も子もありません。そのためには、よく食べ・よく眠り・よく動く。そうすればコロナに罹らないし、罹っても簡単に終わると思っています。

具体的に申しますと、最近私は食事の時に早く食べないように努力しています。食べ物を口に入れたら100回嚙むようにしました。そうしましたら逆流性胃炎で胸やけをしていたのがなくなりました。

睡眠は、朝起きたときに熟睡した感覚がある人は大丈夫です。私の場合、若い頃は5、6時間でも熟睡の感覚がありました。76歳の現在は、ヘトヘトになって疲れた時は9時間から10時間寝ると熟睡感が出ます。

運動は、だいたい毎朝自転車に30分乗ります。それから1時間程ストレッチをして身体の手入れをします。

今年は騙されないように

先程も申しましたが、今は国家的な規模で意識的に騙そうとする動きが増えています。北朝鮮が流したフェイクニュース、ロシアが流したフェイクニュース、中国が流したフェイクニュース・・・これらは意識的に日本の国民を騙そうとしています。

アメリカについては、年季が入っていますね。終戦直後から日本国民をアメリカに都合の良い方向に誘導しようとしている。日本の国民は、ずっと騙され続けていると私は思っています。

15年ぐらい前になりますが、太田警察署でPTAの父兄の方達に講演をしたことがあります。終戦直後、学校で教える教科書はGHQが検閲して墨塗りだったという話をすると、実際に自分も墨を塗った生徒だったという人が手を挙げました。また、墨を塗らせた教師だったと言われる方もいました。

現在も、国会答弁で色々な文書が請求されて出て来ますが、どれも墨塗りの回答文ばかりで、いったいこの国はどうなっているのかと思います。これは終戦直後、アメリカが日本の国民を骨抜きにしようとして有名な3S政策をとったことから端を発して、現在にきています。もういい加減、70年以上経ったのですから、アメリカから騙された方向の流れを変えねばなりません。

お時間になりました。以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。